香川県立保健医療大学リポジトリ

"Dementia Australiaによる認知症の人への支援活動 -診断後の軽度認知症の人の支援について考える-"

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 香川県立保健医療大学 公開日: 2023-03-27 キーワード (Ja): キーワード (En): mild dementia, dementia support, dementia australia 作成者: 土岐 , 弘美, TOKI, HIROMI メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.50850/0000000367

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.

Dementia Australiaによる認知症の人への支援活動
－診断後の軽度認知症の人の支援について考える－

土岐 弘美*

香川県立保健医療大学保健医療学部看護学科

要旨

本稿の目的は，オーストラリアにおいて認知症支援を担っているDementia Australiaの支援活動について紹介し，我が国の診断後の軽度認知症の人の支援について考察することである．まずはオーストラリア全土での活動を担っているDementia Australiaの活動を紹介する．次にニューサウスウェールズ州における診断後の軽度認知症の人に対する支援プログラムについて紹介する．本稿に示す情報は，2019年7月Dementia Australiaへの視察訪問時に得られた資料及び各部署の担当者へのヒアリングとDementia Australiaのホームページから得た．Dementia Australiaの活動は認知症の人や支援者である家族や友人，地域住民，専門職者などを対象に時代のニーズに応じた知識や情報の提供から，認知症とともに生活することを支える活動であった．診断後の軽度認知症の人を対象とした心理教育プログラムは，各々が認知症とともに生活する中で直面する身体・心理・社会的問題に対応する力を治療的なグループを活用することで育んでいた．我が国においても診断後の軽度認知症の人への個別対応や治療的な心理教育グループを提供できる専門職者チームによる体制づくりが望まれる．

Key Words：軽度認知症，認知症支援，Dementia Australia

はじめに

世界の認知症の人の人数は高齢化とペースを併せて拡大し，2009年国際アルツハイマー病協会は，認知症を保健政策上の優先課題とすべきといった勧告を提示し，各国が本格的な対策に乗り出した[1]．日本において，認知症の有病者数は2025年に約700万人に増加すると推定され，認知症の容態に応じた適時・適切な医療・介護等の提供が提唱されている[2]．この施策のひとつとして，早期受診，早期診断は重要課題として進められ，病気の気づきから受診までの期間は短縮された．一方，軽度認知症の人や家族にとって，診断から社会的支援を受けるまでの空白の期間が拡大し[3]，早期絶望を招いた．特に認知機能が保たれている軽度認知症の人は，自らの将来について思い悩み，認知機能障害の影響による不安や混乱を経験している[4-7]．この時期は認知機能障害によるもの忘れや失敗体験を重ねることによって，不安や混乱が強まり，周囲との関係性が悪化してしまう[8]．軽度認知症の時期に抱える本人の苦しさ，不安，恐怖を理解することが重要である．また認知症の人の地域生活の継続を困難にする行動・心理症状の発現は，不安や混乱などの心理症状が要因[9-11]となることは知られている．軽度の時期にこそ十分な支援を提供することが必要である．しかしながら軽度認知症の人は診断後も自立した生活を営む人が多く，介護保険等の社会的支援の利用対象となることは極めて少ない．これが日本における認知症支援の状況である．

世界的に認知症の診断後の支援を実施している国は，オーストラリア，オーストリア，スイス，チリなどがある[12]．特にオーストラリアでは，約35年前から非営利団体

*連絡先：〒761-0123 香川県高松市牟礼町原281-1 香川県立保健医療大学保健医療学部 看護学科 土岐 弘美
E-mail：toki@chs.pref.kagawa.jp
＜受付日 2022年9月9日＞　＜受理日 2022年12月21日＞

組織である Dementia Australia が公的資金を受け，オーストラリア全土の認知症をもつあらゆる年齢の人々，その家族や介護者等を対象に専門的な認知症支援を提供している[13]．筆者は 2019 年 7 月 Dementia Australia 本部の視察訪問，および本部内に設置されているニューサウスウェールズ州の担当者にヒアリングをする機会を得ることができた．オーストラリア全土における認知症支援の取り組みやニューサウスウェールズ州で実施されている診断後の軽度認知症の人の支援プログラムについて紹介することは，我が国における診断後の軽度認知症の人の支援について示唆を得られると考える．なお本稿に示す情報は，視察訪問によって得られた資料及び担当者のヒアリングと現在の Dementia Australia のホームページ[13]によるものである．

目　的

Dementia Australia の活動概要とニューサウスウェールズ州で実施されている「Living with Dementia Program」について紹介することで，我が国における診断後の軽度認知症の人の支援について考察する．

Dementia Australia の活動概要

1．Dementia Australia の概要

Dementia Australia は，認知症に特化した情報・教育・支援の提供や認知症施策の参画，研究推進等の活動をとおし，認知症の影響を受けた人々が可能な限り自分らしく生きることができるよう支援することを目的としたオーストラリアの認知症専門支援機関である．当時，スタッフ数は約 550 名ほどであり，社会学，教育学，心理学等の学位を有しており知識基盤は多様であった．視察訪問当時は，医師や看護師は，常勤配置されておらず，認知症治療やケアに携わる専門職者として研修会等の講師として招かれていた．本部事務所は，ニューサウスウェールズ州ノースライド（North Ryde NSW）にあり，シドニー中心部からバスで約 30 分，自然豊かな郊外にあるマッコーリー大学病院（Macquarie University Hospital）の敷地内に設置されている．緑に囲まれた広大な敷地の中に立つ平屋のレンガ造りの建物からは，温かみのある印象を抱いた（写真１）．病院との連携は，認知症の診断後に本人や家族が，医療スタッフから情報を提供され，Dementia Australia に訪れる方もいる．Dementia Australia の本部機関では，認知症に関わる全ての人に対する情報・教育・支援の提供がされ，その知識や経験による研究活動を基に認知症施策にも参画していた．

写真１　マッコーリー大学病院（Macquarie University Hospital）の敷地内に位置する Dementia Australia

2．Dementia Australia 本部の活動

認知症に関わる全ての人に対する情報・教育・支援の提供として，本人や支援者，また専門職者に対する研修会（表１）を運営していた．さらに施設内には，認知症に特化した図書室が設置されており，司書が常駐していた（写真２）．そして認知症に関する情報収集、発信をし，研究推進活動も行っていた．また利用者が認知症に関わる困りごとや知りたいことを司書に相談すると書籍や文献，映像資料を紹介してもらえた．司書からこの図書室の長所は，偏見から認知症に関する書物を地域の図書館で借りることに抵抗がある本人や家族が安心して利用で

表１　Dementia Australia の支援内容（2021.3）

サービス名	内容
1. National Dementia Helpline	認知症に関する相談対応
2. Counselling support	本人,支援者等に対し,専門職による無料,秘密厳守のカウンセリングの提供
3. Living with dementia	認知症とともに自立し,よりよく生きるための支援の提供
1)Post-diagnostic support	診断後の本人のためのプログラム
2)Families and carers	家族や支援者のためのプログラム
3)Younger onset dementia	若年性認知症の人のサービス,情報発信やプログラム
4)Additional programs	各州独自のプログラム．例えば,社会支援プログラムやこころを元気に保つプログラム等
4. Referrer support	学ぶ場や社会資源などの情報を提供．個人が必要としている資源につなげる

写真２　認知症に関する書籍等が所蔵された図書館

写真３　五感を刺激した環境の提案：男性トイレ

写真４　五感を刺激した環境の提案：ガーデン

きることであるといった話を聞いた．この話からオーストラリアにおいても，本人や家族にとって生きづらさが存在することがうかがえた．

また Dementia Australia で働くスタッフはモンテッソーリ教育の考え方を大切にしており，see，touch，smell，taste，hear に注目し，認知症の人が安心して生活できる環境の提案が施されていた．例えば，本部施設内の様式トイレは，認知症の人の自立した生活を支えるため，便座のふたをカラーリングするなどの工夫がなされていた（写真３）．これは認知症の人は，同色であると物体を認識しづらくなるためである．このように認知症の症状の特徴を理解し，環境を整えることで，認知症の人が自立した生活を継続することを支えていた．そして広々とした中庭には５感を刺激する仕掛けが施された

写真５　啓発活動に活用されているキャンピングカー

写真６　項目別に色分けされた 130 種類を超える HELP SHEETS

散歩道が整備され，本人が楽しみながら過ごせる環境についても提案がなされていた．例えば，smell のコーナーでは香りから快刺激を得ることを目的にハーブを植えるポットが備えられていた．各自が自分のポットに好みのハーブを植え育てる．植物の成長に触れる喜びと自ら育てたハーブを摘み，ハーブティとして楽しんでいた（写真４）．視察訪問した日は，車で２時間ほどの自治体からも専門職者と地域住民が訪問していた．彼らは自分たちの地域で認知症の人や家族を支えるための知識や技術をこの施設で学び，活動に活かすと教えてくれた．このように地域住民への啓発活動も担っているが国土の面積が日本の約 20 倍であるオーストラリアでは，各７州に事務所が設置され，各州の自治体レベルにおいても支援を企画し運営していた．本部のスタッフは各州から協力依頼，例えばフェスティバルなどの参加依頼があるとキャンピングカーを出動させ，認知症に関する啓発活動を支援していた．キャンピングカー内部は，認知症の相談や啓発活動のための HELP SHEETS や様々な種類の冊子が多数おかれ，相談できる場の設置や簡単な軽食が作れるようなキッチンも設置されていた（写真５）．

３．認知症コールセンター（National Dementia Helpline Administration）の活動

認知症コールセンター（National Dementia Helpline Administration）は，Dementia Australia の活動のひとつであり，オーストラリア全土の認知症に関わる全ての人を対象とした相談機関である．オーストラリアは，東部，中央部，西部の３つのタイムラインによる時差を有しているため，スタッフは変則勤務体制をとっていた．またオーストラリアは，移民が多く，多民族による地域社

会である．そのためオンライン情報は豊富であり，現在は38か国の多言語対応によるデジタルサポートも導入している．そして多言語に対応できるスタッフや翻訳スタッフの配置もされており，電話だけではなく，メールやチャット，テレビ電話など相談者の状況に応じたオンラインシステムを活用していた．2018年度の相談者数は家族からの相談が最も多く，認知症の人や家族，友人に限らず，地域住民や専門職者からの相談もあった．相談内容は，「認知症だろうか」，「受診をしたほうがよいか」といった病気の気づきにおける内容から，「怒りっぽい，どう対応したらよいか」，「見守りが難しい．どこに相談すればいいだろうか」といった対応方法，活用できる社会資源などの相談と幅広く，トレーニングを受けたスタッフが，チェックシートを活用し，相談対応を行っていた．認知症コールセンター室の壁面には棚が設置されており（写真６），例えば【About dementia】，【Changed behaviours and dementia】，【Looking after families and carers】，【Caring for someone with dementia】をはじめ項目別に色分けされた130種類を超えるHELP SHEETSをスタッフがすぐに手元に取れるように配置されていた．現在【About dementia】の項目は，24のHELP SHEETSからなり，１番目のシートである〔1.What is dementia?〕では，初期徴候や認知症があらわれる疾患，専門機関に相談することの重要性など，基本的な知識について記載されている．そのようなHELP SHEETSは，スタッフが根拠に基づいた相談対応が行える手助けとなっていた．現在，このHELP SHEETSはオンラインで誰でもがダウンロードすることが可能である[14]．

ニューサウスウェールズ州におけるLiving with Dementia Program

ニューサウスウェールズ州の担当者は，Dementia Australia《Living with Dementia》（表１）の基本的支援の枠組みをもとに，オリジナルの支援を企画運営していた．現在はCOVID-19の影響によりプログラムを短縮し，オンラインでの提供が半数を占めている[15]（表２）．視察訪問時は，EDIE for family Carersといったバーチャル体験から認知症の人の体験を理解する研修会が人気であった．現在はコロナ禍によるUnderstanding and responding to behavior during COVID-19をはじめ複数の研修会が新たに開催されており，認知症の人や家族のニーズ，社会状況に応じた内容に進化し続けていた．今回は，診断後の軽度認知症の人の心理教育プログラムである〈Living with Dementia Program〉（表３）について紹介する．

〈Living with Dementia Program〉は，診断を受けて初めて参加する本人支援のグループプログラムである．７回で構成され，１週間に１回，３時間のクローズドグループで実施されている．ニューサウスウェールズ州の地域の住民が参加しやすい機会となるため，年４回ほど場所を変えて各自治体の施設で実施している．担当者のヒアリングから，参加人数は約６～10人程度であり，認知機能レベルは軽度の人が主である．イギリスの紅茶文

表２　ニューサウスウェールズ州のLiving with dementiaにおける支援（2021.3）

Living with dementia title	内容
Living with dementia program	本人が認知症とともに生きるためのプログラム
Carer wellness program	支援者が認知症の人とよりよく生きることを目的にしたプログラム
Care for the carer	2日間プログラム．支援者が自らの幸福感を保ち,効果的なコミュニケーション方法を獲得する
Mild cognitive impairment	軽度認知機能障害について学ぶ
Understanding Dementia	認知症について学ぶ
EDIE for family carers	バーチャル技術を活用し本人の体験を理解する
Recently Diagnosed	診断を受けて間がない本人,支援者に対する情報提供
Blokes in the caring role	男性介護者が介護することを学ぶ
Coping with changes in behaviours	一般的な行動の変化について学ぶ
Grief, loss and dementia	喪失や悲しみなど感情の変化を知り,対応方法を学ぶ
Communication and dementia	コミュニケーションの変化や対応方法について学ぶ
Dementia Care Navigator - A better way to connect with services and supports	社会資源等の情報を得て,繋がる方法を学ぶ
Transitioning to respite and residential care	レスパイトケアの大切さ,在宅介護について学ぶ
Driving and Dementia	認知症と自動車運転について学ぶ
Family carer workshop: Understanding and responding to behaviour during COVID-19	コロナ感染症の影響を受ける中であらわれる行動や反応について学ぶ

表３　Living with Dementia Program（2019.7）

回数	テーマ
1	My Challenge with Dementia
2	What is Dementia? (Guest speaker, usually a doctor)
3	Impact of Dementia on Your Life/Living with Daily Loss
4	Communicating more Effectively
5	Living more Effectively
6	Understanding my Legal and Financial Concerns(Guest speaker, usually a solicitor)
7	Program Evaluation and Follow Up

化を受け継いでおり，セッションでは，毎回，紅茶にビスケットを準備し，リラックスして参加できるような配慮を施している．途中でリタイアする参加者もいるが，その際には個別支援へと支援方法を変更している．グループ終了後，参加者は認知症とともにどのように生きるか，プログラムで獲得した知識をもとに，自らの生活を模索するようになる．そのプロセスにおいて自治体で提供されている支援や個別相談を活用する方もいれば，社会活動を継続する方もおり，スタッフは状況に応じた支援を行っている．認知症の診断を受けた人は，このプログラムを経たのちに自らの人生や生活を再構築し，自ら主体的に他の社会資源を活用していた．

次に〈Living with Dementia Program〉の具体的内容を述べる．初回は，“My Challenge with Dementia”というテーマで認知症と診断を受けた参加者が出会い，お互いを知りあう機会となる．そして認知症が自分の生活に与える影響について初めて自由に他者に話す機会となるよう支える．２回目は，“What is Dementia?”というテーマで医師をゲストとして招き，参加者が認知症について学び，質問する機会となる．認知症とともに日常生活を営む力を向上することを支える．３回目は，“Impact of Dementia on Your Life/Living with Daily Loss”というテーマで参加者が抱く，診断に関するショック，悲嘆，苦痛，およびその診断が人生に与える影響などに特定し，自らの体験を他者と語り合う機会となる．自らの状況を客観的に理解し，認知症とともに生きることができる力を促進することを支える．４回目は，“Communicating more Effectively”というテーマで参加者が診断後の自らのコミュニケーション方法の変化を振り返る機会となる．そして他者と円滑にコミュニケーションが行えるよう自らのコミュニケーション技術や方法を見直し，他者とストレスフリーに対話ができる方法を参加者とともに考え，個々がその力を身につけられるよう支える．５回目は，“Living more Effectively”というテーマで参加者が認知症の影響で日常生活に問題が生じた時の解決方法を考える機会となる．様々な状況で起こりうる問題を知り，自らがその問題に出会ったときに対処する方策を参加者とともに考え，力を獲得することを支える．６回目は，“Understanding my Legal and Financial Concerns”というテーマでゲストに弁護士を招き，遺言などの相続についてや，判断が難しい状況になった時の委任方法や後見人の選定などについて知る機会となる．自らの資産について起こる問題を回避したり，全てを家族に任せるのではなく，自分の意思で財政や法的問題に取り組むことを支える．最後の７回目は，“Program Evaluation and Follow Up”というテーマで参加者がプログラムで得たことを確認し，認知症とともに生きるために自らで希望する次のステージのプログラムに参加することができるように支える．

我が国の診断後における軽度認知症の人に対する支援の検討

Dementia Australia の概要とニューサウスウェールズ州における認知症の人に対する支援，診断後の軽度認知症の人に対する心理教育プログラムについて紹介した．Dementia Australia の活動は認知症の人や支援者である家族や友人，地域住民，専門職者などを対象に時代のニーズに応じた知識や情報の提供から，認知症とともに生活することを支える活動であった．ニューサウスウェールズ州における診断後の軽度認知症の人の心理教育プログラムは，各々が認知症とともに生活する中で直面する身体・心理・社会的問題に対し，対応することができる力を治療的なグループを活用することで育んでいた．参加者が認知症とともに自らの人生を豊かに歩むため，仲間や専門職者から知識や情報を学び取る積極的な本人参加型のスタイルであった．

認知症の人にとって，認知機能障害による影響，特に体調が万全でない時には自らの意思を表明しづらい状態となる．これは周囲の人にとっては分かりにくい認知症の人特有の体験であり，他者との関わりの中で自尊感情が傷つきやすい[16]体験を繰り返している．また日本人の特徴として，心理的な自立度の高さである自己完結性と見知らぬ者にも心を開き，すぐに打ち解けられる能力である対人疎通性の能力が乏しい[17]といった報告もある．したがって，オーストラリアで展開されている心理教育プログラムをそのまま導入するのではなく，我が国の診断を受けた軽度認知症の人や家族の声に耳を傾け，実施内容をはじめ参加人数などの実施方法を十分検討する必要がある．

認知症施策推進大綱は，診断直後から本人の意思をできるだけ早くくみとり，不安軽減に向けた本人ミーティングや意思決定支援等の必要性を提示している[18]．しかし 医療機関における認知症の診断後の支援報告は極めて少ない．本人や家族が自らで積極的に情報収集をし，自らで認知症カフェや本人や家族の会等にアクセスしない限りは，外来受診時のみが相談できる機会となっている．認知症の診断直後，特に軽度認知症の人は強い心理的揺れを経験している．この時期に新しい環境に自らアクセスすること，新しい不慣れな環境で自らの病につい

て自己開示することは容易なことではない．したがって診断を行った医療機関においても支援体制を整えていくことが重要である．診断後の軽度認知症の時期の支援は，ショック，怒り，悲しみの気持ちから安心感とエンパワーメントへと移行することでバランスが取れ[19]，認知症とともに生きていくことを支える．また軽度認知症の人に対するグループ支援は抑うつを軽減し，生活の質と自尊心を改善するなど心理的な利益をもたらす[20]．軽度認知症の人の情緒的健康をサポートすることは，認知症の人や家族が，地域でその人らしく日常生活を続けることができる社会の実現に貢献できる．

以上より，我が国においても診断後の軽度認知症の人への個別対応や治療的な心理教育グループを提供できる専門職者チームによる体制づくりが望まれる．これは診断後の軽度認知症の人や家族にとって認知症とともに人生をどのように生きていくか，自らで考え，意思決定できる機会となると考える．

謝　辞

視察訪問は，文部科学省科学研究費補助金基盤研究 C（課題番号 18K10514）の助成を受けて実施した．視察訪問においては，多忙な業務の中，インタビュー，施設見学，また写真等の活用についても承諾をいただいた Manager Wellbeing Program, Manager National Dementia Helpline Client Services をはじめ，教育・啓発活動担当者，図書司書の皆様に心より感謝いたします．また報告書をまとめるにあたってご助言をいただいた高知県立大学看護学部，田井雅子先生，野嶋佐由美先生に感謝いたします．

文　献

1）Alzheimer's Disease International. World Alzheimer Report (2015) The global impact of dementia, 2022-8-30,https://www. alz. co. uk/research/world-report-2015.
2）厚生労働省 福祉介護 認知症施策．新オレンジプラン ,2022-8-30,https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/kaigo_koureisha/ninchi/index.html
3）社会福祉法人東北福祉会認知症介護研究・研修仙台センター．認知症の家族等介護者支援に関する調査研究事業 報告書 ,19,2013,2022-8-30. https://www.dcnet.gr.jp/pdf/download/support/research/center3/322/s_h29kazokushienn_doc.pdf
4）Boden,C.“WHO WILL I BE WHEN I DIE ？”1nd ed, Harper Collins Publishers,Sydney,1997.［桧垣陽子訳“私は誰になっていくの”12 版，クリエイツかもがわ，京都：18-160,2005.］
5）Bryden,C.“Dancing With Dementia：My Story Of Living Postivively With Dementia”, 1nd ed, Jessica Kingsley Publishers,England,2005.［馬籠久美子，桧垣陽子訳“私は私になっていく”6 版，クリエイツかもがわ，京都：14-234,2011.］
6）Swaffer,K.“WHAT THE HELL HAPPENED TO MY BRAIN ？ Living Beyond Dementia”1nd ed, Jessica Kingsley Publishers,England,2016.[寺田真理子訳“認知症を乗り越えて生きる”クリエイツかもがわ，京都：27-375,2017.]
7）丹野智文．“笑顔で生きる”. 文芸春秋，東京：20-264, 2017.
8）大塚智丈．認知症の人への心理的理解・支援の重要性．日本認知症ケア学会誌 ,19(2)：346-351,2020.
9）清原裕．認知症の実態とその予防 .Geriat Med, 54(5)：437-440,2016.
10）鷲見幸彦．“認知症の定義，概要，疫学”，日本看護協会，認知症ケアガイドブック (1 版), 照林社，東京 ,2-7,2016.
11）高橋幸男．認知症の人の認知機能障害 生活障害 BPSD の心理社会的構造．精神医 ,58 (11)：897-903,2016.
12）日本医療政策機構．平成 30 年度 老人保健事業推進費等補助金　老人保健健康増進等事業　国際的な認知症施策を踏まえた認知症高齢者等にやさしい地域づくりの推進に関する調査研究事業～日本に求められる認知症診断後支援体制等の在り方と持続可能な体制構築のための官民連携のイノベーションの創出に向けて～報告書．平成 31 年 3 月特定非営利活動法人 ,2018.
13）Dementia Australia. 2022-8-30, https://www.dementia.org.au/
14）Dementia Australia, 2022-8-30, https://www.dementia.org.au/resources/help-sheets
15.）Dementia Australia, 2022-8-30,https://www.dementia.org.au/support/living-with-dementia
16）大塚智丈．認知症の人への診断後の心理的支援とピアサポート，老年精神医学雑誌 ,30（12）：1373-1378，2019.
17）稲村博．人格力動・精神病理の異文化間研究－日本人が「固まる」ことの考察」，心理学評論 ,22（3）：319-331，1979.
18）認知症大綱．認知症施策 推進関係閣僚会議 ,2019. 2022-8-30, https://www.mhlw.go.jp/content/000522832.pdf
19）Alzheimer's Disease International：World Alzheimer Report (2019)Attitudes to dementia,2022-8-30, https://www.alz.co.uk/research/world-report-2019.
20）Phuong,L.,,Martin,O.,Vasiliki,O.:Social support group interventions in people with dementia and mild cognitive impairment.a systematic review of the literature, Int J Geriatr Psychiatry,30(1),1-9,2015.

Support Activities for People with Dementia by Dementia Australia -Thinking about Support for People with Mild Dementia after Diagnosis-

HIROMI TOKI*

Kagawa Prefectural University of Health Sciences

Abstract

The purpose of this paper is to introduce Dementia Australia and to consider support systems for people with mild dementia diagnosed in Japan. This article introduces Dementia Australia's activities across Australia and support programs for people with mild dementia who have been diagnosed with dementia in New South Wales. The information presented in this paper was gathered from materials obtained during the inspection visit to Dementia Australia in July 2019, interviews with the person in charge of each department, and the website of Dementia Australia. Dementia Australia's activities are aimed at people with dementia and their supporters such as family members, friends, local residents, and professionals, by providing knowledge and information that meets the needs of the times and supporting people living with dementia.

A psychoeducational program for people with mild dementia after diagnosis nurtures the ability to deal with the physical, psychological, and social problems they face while living with dementia by utilizing therapeutic groups. In Japan it is also desirable to develop a system that can provide individual support from a team of specialists who can develop support from physical and psychosocial aspects after the diagnosis of dementia, and also therapeutic group activities.

Key Words：mild dementia, dementia support, dementia australia

*Correspondence to : Hiromi Toki, Faculty of Health Sciences, Kagawa Prefectural University 281-1 Hara, Mure-cho, Takamatsu, Kagawa 761-0123, Japan
E-mail: toki@chs.pref.kagawa.jp